

《 賛助会員からひとこと 》

各メーカー様に順次ご寄稿を頂き、シリーズとして掲載しています。
今回はかどや製油㈱様にご寄稿いただきました。

胡麻の原料事情について

かどや製油株式会社
東京支店長 黒澤 義弘

世界のごま生産量はおよそ 450 万トン。インド・ミャンマー・中国の三大産地でその約 50%弱を占め、その他アフリカ・中南米が主要産地となっている。

日本はほぼ全量を輸入に頼っており、年間の輸入量は約 15 万トン。そのうち 9 万トンが搾油用ミックスごまであり、ほとんどをアフリカのナイジェリア・タンザニア・ブルキナファソの 3 カ国に依存している。

<原料状況>

2015 年、2016 年はアフリカの主要国で例年よりも豊作が続いた為、契約単価は下落の傾向を示した。15 年以降の相場安を受け日本の輸入量が増加したことにより、国内メーカーの在庫状況は重い状態が続く結果となった。その後 16 年に入っても原料相場は引き続き下降傾向を示したが、国内在庫も飽和状態が続いた為、国内メーカーは輸入量を増やすことが出来ず、結果的に 16 年の日本の輸入量は減少することとなった。

尚、財務省輸入通関統計によると、直近の 2017 年 3 月における全港のごま平均単価は \$1,392/mt となり、搾油用のアフリカ主要 5 カ国（ナイジェリア・タンザニア・ブルキナファソ）の平均単価は \$1,038/mt となっている。

一方、近年は中国の輸入量が増加し、同国の買付動向がごまの国際相場に大きな影響を与えるようになった。現状では、世界のごま生産量で世界の需要を賅っているが、今後はインドも中国と同じく輸入国に転じたり、世界の主要生産国の生産量が減ったりした場合には、需給のバランスが崩れ相場が急騰するリスクがある。ごまの国際相場は、今後も不安定な要素を持ちながら推移するものとして注視していく必要がある。

【中国】

主要生産国でもある中国が 2014 年から輸出国から輸入国に変わったことにより、同国の購入動向がごまの国際相場を大きく変動させる要因となっている。2016 年の輸入量は約 90 万トン（日本は 15 万トン）と一昨年 50 万トン半ば、昨年の 80 万トンから伸長している。

これは世界ごま生産量の 1/5 を占めるボリュームである。同国の主要輸入国を見ると、以前はエチオピア・スーダン・モザンビーク等日本への輸出が少ない国々からで棲み分けされていたが、日本の主要輸入先であるナイジェリア・タンザニア等からの輸入も拡大させており、世界の需給バランスが崩れ価格変動の要因となっている。

【アフリカ】

生産量 180 万トンの世界最大の産地となり、今では世界輸出量の約 60% を占めるまでに成長した。ごまは外貨獲得の為の農産品として栽培され、収穫された貨物はほぼ全て輸出されている。

従来アフリカ産は搾油用ミックスごまの産地として流通していたが、近年は品質が向上し食品用として流通する貨物の量が増えている。現在は、搾油用ミックスごまが 150 万トン、食品用が 30 万トン程度の内訳となる。直近 2 年の生産は順調であり、輸入量が増加している中国の需要を支えている。

【中南米】

生産量は 15 万トンと世界の主要産地と比較すると少ないが、日本にとっては白ごまの供給産地として重要な役割を担っている。食品向けとして品質レベルが高い分、アフリカやインドなどの産地よりも生産コストが高い。近年日本の食品ごまメーカーが使用する食品用の白ごま産地は、アフリカ産の品質向上により、中南米産の使用量を減らしアフリカ産の使用量を増やす傾向が見られている。

直近 2 年の国際相場の下落により、ごま農家の栽培意欲が低下していることから、生産量が減少している。また、近年はエルニーニョ現象の影響で反収が伸びず、収穫量と品質が安定しなかった年があり農家のごま離れに影響した。

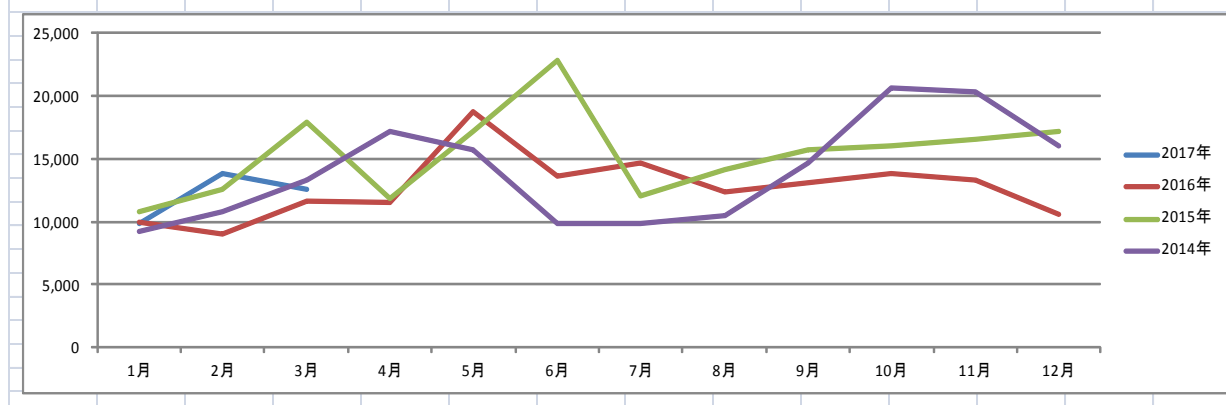
尚、南米最大の生産国であるパラグアイは、約 10 年前の最盛期には 4 万トンを輸出していたが、2017 年の生産量の予想値では 1.2 万トン（白ごまは 0.7 万トン）にまで減少している。

<日本のごま輸入量の推移>

2014 年にごま輸入価格上昇、15 年は価格の下落基調を受けて同年のごま輸入量が大幅に増加（前年比 110%）。その在庫が積み上がった反動を受けて昨年 1 年間は 152 千トンと大きく減少（前年比 82%）

（単位：トン）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2017年	9,885	13,875	12,572										36,332
2016年	9,901	9,019	11,653	11,488	18,718	13,606	14,651	12,399	13,072	13,786	13,260	10,548	152,101
2015年	10,806	12,544	17,916	11,817	17,204	22,832	12,028	14,098	15,724	16,017	16,530	17,190	184,706
2014年	9,248	10,838	13,277	17,173	15,736	9,870	9,837	10,509	14,694	20,665	20,348	16,028	168,223



<日本のごま原料輸入価格の推移>

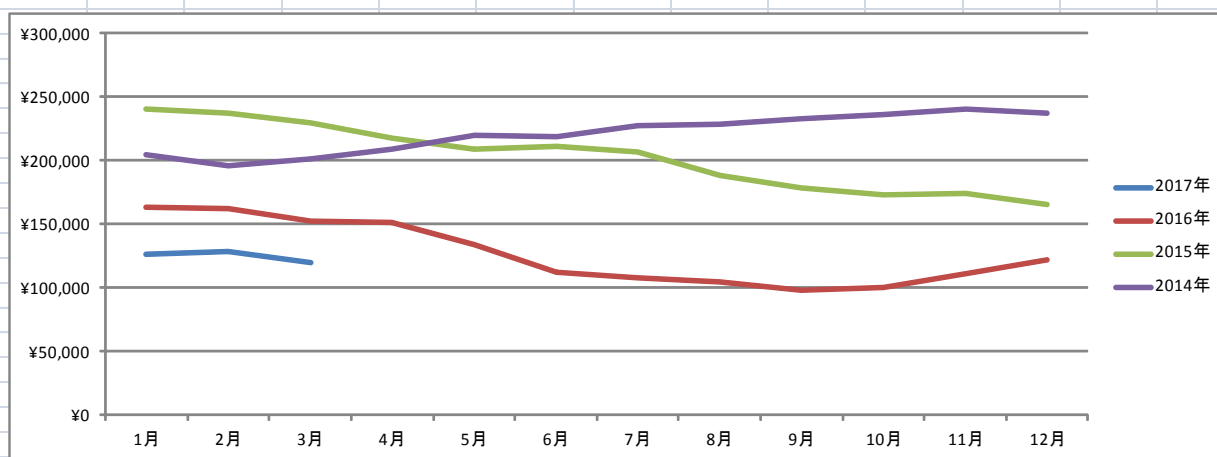
ごま原料輸入価格は、2014年は年間を通じて上昇。15年から16年半ばにかけては下落基調。その後は緩やかに上昇、横這いで推移中。

日本は、ほぼその全量を輸入に頼っており、為替の与える影響は大きい。またそれ以外に中国の動き、天候、他穀物価格、中東情勢等の影響を見ていく必要がある。

日本ごま原料輸入通関統計

(円/トン)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	¥126,575	¥128,591	¥119,900									
2016年	¥162,996	¥161,953	¥152,716	¥150,759	¥133,873	¥112,077	¥107,459	¥104,316	¥98,027	¥99,783	¥111,221	¥122,160
2015年	¥241,010	¥236,803	¥229,738	¥217,150	¥208,787	¥211,169	¥206,695	¥187,950	¥178,801	¥173,401	¥174,030	¥165,926
2014年	¥204,905	¥195,665	¥201,729	¥208,402	¥219,453	¥218,532	¥227,377	¥228,818	¥232,608	¥235,878	¥240,146	¥237,683



(ブルキナファソ、ナイジェリア、エチオピア、ウガンダ、タンザニア、モザンビーク 計6カ国)